
平成 31 年度 交通に関する椿東（越ヶ浜）地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 4 月 18 日（木） 14：00～15：30

場 所：山口県漁協はぎ統括支店

事務局：萩市商工振興課、日本工営株

ご参加：住民の皆様 29 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

(1) 資料 1 「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」

資料 2、3 「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」

事務局：資料 1、2、3 を説明（省略）

意見交換：

参加者：まあーるバスの現在のルートは、使いやすいルートなのか。市民が希望されているのか。市民病院に行く際は、1 時間ぐらい時間がかかるとの意見もある。また回り方が一方通行なのも気になる。

事務局：現状の運行形態は、一方向のみで、1 時間で周遊する循環バスである。それを見直して、1 時間にとらわれず、利便性を重視した運行形態を検討したいと思う。

参加者：資料 2、P19 の 1 日乗車券とは、どのようなサービスか。

事務局：路線バスとまあーるバスがセットで、500 円で乗れる乗車券である。路線バスで越ヶ浜から萩バスセンターまで往復 600 円だが、路線バスの運賃が 100 円引きとなり、まあーるバスに乗り換えても、この乗車券で乗れる割引券である。

参加者：公共交通は半世紀以上乗ったことがなく、自分で運転している人は、公共交通を乗らない。

事務局：今は使っていないが、将来、免許を返した際には、公共交通を利用する可能性があるというアンケート結果が出ている。

参加者：越ヶ浜のバス路線の問題は、1 時間に 1 本もないことである。将来像の図面では、青い線が通っているが、現状とどう違うのか。

事務局：将来像の図は、現状の広域幹線は維持をしていく必要があることを示している。本数については、現状の利用状況を踏まえて、検討する。どのような体系がよいのか。紫福までの路線、奈古までの路線等、利用状況を踏まえて検討する。

また、自宅からバス停まで行くのが大変な家もある。その足をどのように確保するのか、今はないが、新たに考える必要があるので、これらに対応した交通体系を考える。

参加者：路線バスの本数が少ないことについて、増やすという考え方か。

事務局：本数については、採算性の面もあることから、交通事業者と協議しながら検討する。

参加者：まあ一バスを越ヶ浜まで延長することはできないか。観光客を増やせるのではないか。

事務局：越ヶ浜は、ジオパークであり観光拠点になっている。まあ一バスは、観光客が点在する箇所を運行することも検討している。どこのエリア、どれだけカバーするかは、これから検討する。

参加者：まあ一バスについては、以前、越ヶ浜まで回して欲しいことを意見した。ただし、予算の関係や既存の路線バスとの兼ね合いもあると聞いている。一方で、シーマーとや松陰神社まで人が来ていることから、シーマーとから越ヶ浜までシャトルバスを運行してもらえないか。

事務局：まあ一バスは、観光スポットを繋げることにも留意しているが、越ヶ浜の既存路線と重複することから、事業者との調整が必要となる。このため、今後の事業者との協議を踏まえて検討する。まあ一バスの観光スポットへの結節は意識することでご理解いただきたい。

参加者：三見のぐるっとバスについて詳しく説明していただきたい。

事務局：三見は、10人乗りのワゴンを活用して、運転手は住民がボランティア活動で対応している。住民のきめ細かな足として、運行している。車の経費、車両は市で予算を計上している。三見地区もこのワゴンを使って、最終目的地まで行けるとよいが、交通事業者との調整が必要となる。

参加者：三見の場合、コースは決まっているのか。

事務局：三見は予約を受けて、指定した範囲内で、自宅から目的地まで連れていく。

参加者：一定の範囲はあるが、乗降自由ということか。

事務局：買い物支援や、イベント参加などに使ってもらえるようにしている。

参加者：運転手の資格は必要か。

事務局：普通の運転免許でよい。ただし、無償での運行となる。

事務局：ぐるっとバスは、旧市町村で運行しており、地域内を循環するシステムである。むつみ地域のような、定時定路線の仕組みで運行しているところもある。

参加者：大井は社会福祉協議会の車両として配置しているが、大井で活用できる車両となっているのか。

事務局：P29 大井地区の高齢者の生活支援バスは、介護保険制度の中で、住民主体の支え合いで運行している。住民が高齢者や介護が必要となる人に対して、支援している。大井もこの制度に基づいて配置している。サロン活動での利用は問題ないが、要支援1、2の対象者の移動手段にはなっている。このような制度も利用しながら、住民の移動手段を確保したい。

三見は交通空白地対策として、住民がボランティアで運転手となって実施している。住民が地域の交通を支える仕組みも考える必要がある。越ヶ浜のように、家が密集している環境と違い、三見は家が離れているため、自宅からバス停まで行くのも大変な状況にある。これらを踏まえ、それぞれの地区の実情に応じた計画を作成したい。自宅から診療所に出ていくようなきめ細かい支援は、住民の支え合いの交

通も必要となる。国の制度では、過疎地域で有償運送が可能となっている。そのような仕組みも踏まえて、自家用車も使ってできる仕組み、地域の支え方も含めて検討する必要がある。

参加者：越ヶ浜には、地区社会福祉協議会はない。住宅も密集しているので、ほかの地区と比べても状況は異なる。また福祉や介護の兼ね合いもある。

事務局：指摘のとおり、それぞれの地区で状況も異なる。それぞれの地区にあった交通体系を検討する必要がある。

参加者：越ヶ浜ではどういった交通体系が理想なのか。

事務局：まずは交通事業者との調整が必要である。過疎地域など、交通事業者が運行できないところは、自治会で対応が可能となる。越ヶ浜の方では、現段階で明確な答えは得られないが、まずは交通結節点、住民の支え合いの視点で検討する。

事務局：地区社協の問題及びまあーるバスの要望はご意見としていただいたので、検討したい。

事務局：越ヶ浜の路線バスの利用者は、他の路線と比較して多い。路線バスとまあーるバスの共通乗車券があるなど、他地区と比較して公共交通が利用しやすい状況ではある。今後も継続的に利用いただきたい。

参加者：地域のお金で越ヶ浜の待合室を使ったが、越ヶ浜入口のバス停も古くなっている。整備費用など工面されることはないだろうか。

事務局：待合環境の整備は今後検討する。ただし、市内を見ると、他地域にも整備が必要なバス停も多い。それらも含めて、どのように待合施設を整備するか、検討する。

参加者：運賃の問題もある。高齢者に対する運賃の割引について、防長交通は他の町で実施している例もある。そのあたりの検討もして頂きたい。

事務局：むつみから市内まで運賃が1,120円かかる例もある。これらも含めて、利用負担軽減は検討したい。高齢者福祉の観点から、負担の見直しを検討する。

参加者：車イス利用者の全体の状況はどのような形となっているか。

事務局：まあーるバスは低床バスなので乗車は可能である。その他の路線バスは、交通事業者曰く、バス車両の更新のための予算確保が厳しく、新しい低床バスの購入が難しい状況がある。現状、車いすの方には、福祉タクシー利用券の制度がある。

事務局：まあーるバスは、路線バスとの調整も必要である。考え方として、1時間にとらわれず、住民の利便性を考えたい。もともとの観光スポットを結ぶという本来の目的は維持することは検討する。この考え方だけのご理解いただきたい。

参加者：越ヶ浜の路線では、利用者が多くて、立ったまま乗る人も多い。乗車密度が高い。大きなバスに変えられないか。

事務局：交通事業者の経営状況も厳しいので、車両自体の更新も難しいと思うが、要望があったことは交通事業者に伝える。

参加者：通勤通学時、特に朝方は混む状況。防長バスの方から話を聞くと、越ヶ浜の路線は、所有するバスの中でも大型のバスで対応しているとのことであった。それでも混むようだったら、また考えるとのことだった。今後そういう話が多く出るようだったら、市や防長交通にも対応いただきたい。

また、奈古から乗車された若い方が、越ヶ浜から乗車された高齢者に対し、席を譲ったなどの話もあったと聞く。バスの利用は譲り合いの精神を向上させることにもつながっている。

参加者：提案だが、しーまーとまでは、まあーるバスが来ている。一方、休日には、世界遺産の反射炉など、しーまーとを起点としてシャトルバスが運行している。また越ヶ浜にはジオパークもある。最初からまあーるバスの延伸は難しいので、しーまーとから、シャトルバスを運行してまあーるバスと連結されること等も検討いただいてはどうか。

事務局：交通事業者との話し合いで、観光スポット、移動手段の確保、シャトルバスをトータルに考えて、巡りやすい方式を検討する。市役所の方で、観光施策とも交えながら検討したい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上